

学習指導要領の先を照らす

校長 坂口 京子

研究成果は、静岡大学教育実践総合センター紀要(30)、静岡大学教育学部研究報告・教科教育学篇(51)にも発表しております(静岡大学学術リポジトリ:国語、社会、数学、理科、保健体育・保健、技術)。掲載した「研究論文」「実践報告」は、教育学部教授陣との共著が中心です。本校の授業実践が専門的知見からどのように位置付けられているか、ご一読いただけますと幸いです。本校の研究紀要、研究書籍とともに、全面実施となる第9次学習指導要領の実現に向け、参考にしていただけるものと自負しております。

今後も「教科と学びの創造」を一貫したテーマとし、学習指導要領の一步先、二歩先を照らす研究を探究してまいります。引き続きご理解ご協力の程よろしくお願いたします。



新たな研究に向けて

研修部長 杉山 慎一郎

「投げは、掛けもそうだけれど、作りで決まると思った。どのスポーツにおいても事前の動作が大切になることは共通していると思った」昨年度、柔道を学んだ後に子どもが記述したふり返りです。この記述は、柔道で学んだ「投げは一連の動作で成り立っている」ことが今まで経験してきた他のスポーツとつながった場面と言えるでしょう。このように、教科ならではの文化を味わう子どもたちのあらわれを題材の中で見とっていくことで、私たちの想像以上にダイナミックに学んでいく子どもたちの姿が見られました。私たちは、学びをつなぐ子どもたちの姿を学びを自覚するあらわれの一つであると捉え、今年度から「学びの自覚-教科で願う学びを子どものあらわれから考える-」という主題・副題を設定しました。今年度も多くの先生方から忌憚のないご意見をいただき研究を進めていければ幸いです。

令和元年度 研究紀要が完成しました!

令和元年度研究紀要が完成しました。本年度研究発表会の授業実践を中心に、研究成果をまとめました。ぜひ、以下のリンクからご覧ください。



研究書籍のご案内

対話が深める子どもの学び

—「教科ならではの文化」を味わう授業—

明治図書刊 本体価格 2,200 円

本書では、各教科が考える「教科ならではの文化」を味わう授業について、具体的な子どもの姿を通して提案します。本書に関するお問い合わせは、本校研修部まで。書店・オンライン書店等でもお求めできます。

しずおか

Shizuoka Junior High School Attached to the Faculty of Education of Shizuoka University

静岡大学教育学部
附属静岡中学校
2020.SUMMER

No. 84



学びの自覚

静岡大学教育学部 附属静岡中学校

〒420-0865 静岡県静岡市葵区駿府町1番86号

TEL 054-255-0137 FAX 054-252-7335

E-mail osizuchu@shizuoka.ac.jp

URL http://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/

HPには、教育研究協議会のお知らせや、日頃の授業の様子など掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



国語科の主張

1. 教科で育みたい人間像

言語感覚を磨き、自らの思いを表現していく人

2. 教科ならではの文化

創造力や感受性を働かせて作品（言葉）の世界に浸る営みや言葉を吟味しながら自分の思いを発信していく営み
自分自身を見つめ直していく営み

子どもたちは自分の意見を仲間と伝え合い、題材の本質や価値に迫る楽しさを実感していきます。言葉の世界を味わう中で育まれる学びがどのようなものか、多くの先生方と一緒に考えていけたら幸いです。（小野祐一郎・繁田美帆・木下聡美）



社会科の主張

1. 教科で育みたい人間像

社会を創る人

2. 教科ならではの文化

様々な解釈の仕方や多様な価値観を尊重しながら、「すべての人にとって最善の社会の姿」を創りあげていく営み

社会的事象に出会ったときに「こんな社会にしていきたい」という思いや意志を抱く人こそ、自分なりの社会像をもち、よりよい社会を創っていくことができるでしょう。多様な価値観を尊重しながら、よりよい解決に向けて対話を重ねる子どもたちが見られるような授業を構想していきたいと思えます。（勝又悠太・望月慈希）



理科の主張

1. 教科で育みたい人間像

科学のまなざしをもつ人

2. 教科ならではの文化

実証性・再現性・客観性にこだわりながら、自然の事物・現象に向き合う営み

理科における主体的、対話的で深い学びとはどのようなものでしょうか。私たちは理科ならではの文化を味わうことを通して、「科学のまなざし」をもった子どもたちを育てていきたいと思えます。表紙の写真は理科の授業のようすです。このようなキラキラした表情があふれる授業を目指していきます。（井出祐介・高橋政宏）



美術科の主張

1. 教科で育みたい人間像

感性豊かに創造していく人

2. 教科ならではの文化

感性を働かせてものごとを造形的な視点で捉え、新たな意味や価値を創造する営み

美しいものに気づき、美しいと感じられるのは、人間が感性をもっているからです。子どもたちがもつ感性を伸ばし、広げていく学びを実現したいと考えています。そのような学びをした子どもたちには、想像したり、発想したりしながら、未来を創り出せる人になってほしいと願っています。（萩原彰彦）



技術科の主張

1. 教科で育みたい人間像

ものや技術を多様な視点から見つめ、創造する人

2. 教科ならではの文化

思いや願いを実現するための方策を創造する営み

技術・家庭科（技術分野）では、人が生活を営むための「ものや技術」に焦点をあて、自らの生活をよりよくするために製作活動を行います。見いだした方策を仲間と練り合い、多様な視点から「ものや技術」を見つめ直し、それらの価値や活用方法を創造する授業を実践していきます。（本部康司）



家庭科の主張

1. 教科で育みたい人間像

生涯にわたってよりよい生活を営む人

2. 教科ならではの文化

生活を見直したり、新たな価値観にふれたりしながら、よりよい生活を追い求めて実践する営み

社会が大きく揺れ動いている今も、私たちは「生活」を続けています。このように日々繰り返される生活の何気ない場面に焦点をあて、子どもたちがよりよい生活を追求することができるような題材を構想していきたいと思えます。（堀池美衣）



数学科の主張

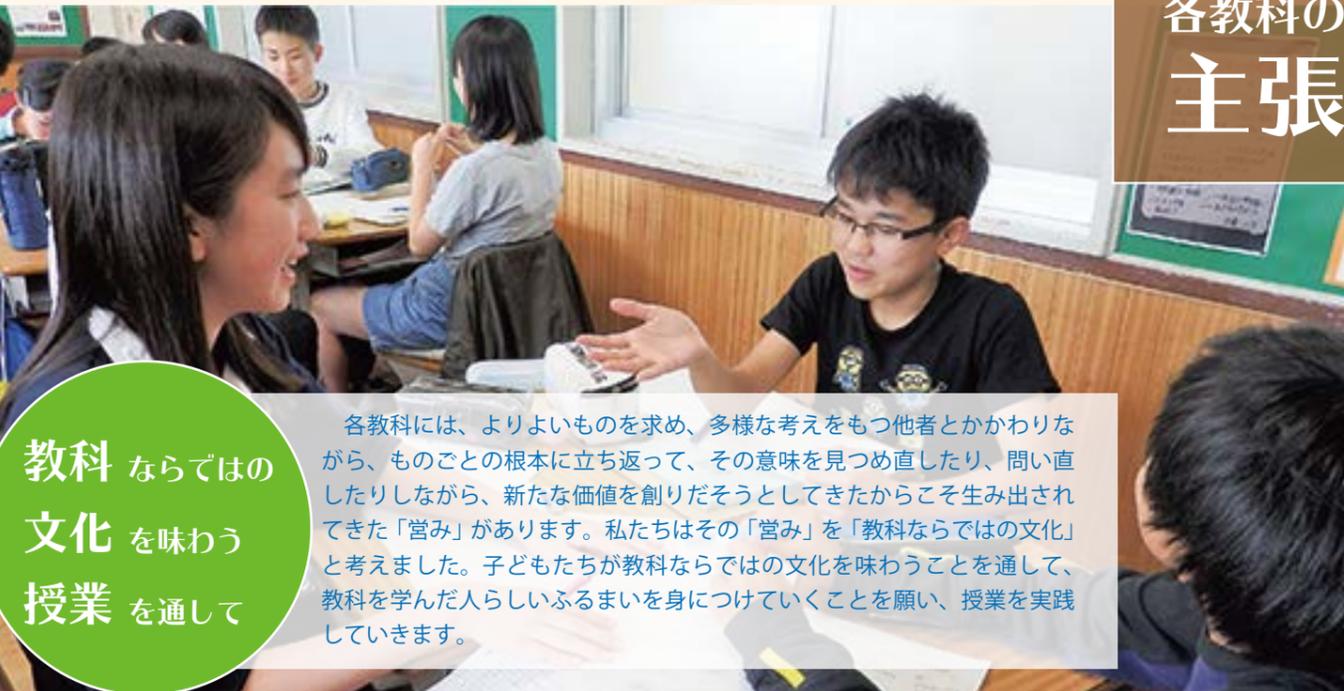
1. 教科で育みたい人間像

論理的かつ客観的に解決にあたる人

2. 教科ならではの文化

様々な事象を数理的に捉えて、解決する過程において的確な解釈や判断をしたり、法則や定理を結びつけたりする営み

私たちは、様々な事象を数理的に捉え、「なぜそう言えるのか」「そこから何がわかるのか」と問い直しながら、子どもたちが互いの解釈や判断を重ね合わせ、法則や定理を結びつけていく姿を見たいと考えています。そして、子どもたちが数や図形概念を再構築していく数学の授業をめざしていきます。（菊野慎太郎・杉山元希・安濃勇太）



各教科の主張

教科ならではの文化を味わう授業を通して

各教科には、よりよいものを求め、多様な考えをもつ他者とかかわりながら、ものごとの根本に立ち返って、その意味を見つめ直したり、問い直したりしながら、新たな価値を創りだそうとしてきたからこそ生み出されてきた「営み」があります。私たちはその「営み」を「教科ならではの文化」と考えました。子どもたちが教科ならではの文化を味わうことを通して、教科を学んだ人らしいふるまいを身につけていくことを願い、授業を実践していきます。

英語科の主張

1. 教科で育みたい人間像

世界の人々とつながる人

2. 教科ならではの文化

自分の思いや考えを伝え合うような英語でのやりとりを通して、「伝わった」「わかった」という達成感や充実感を味わい、さらに、積極的にコミュニケーションを図ろうとすること

「自分の思いや考えを伝えたい!」「仲間はどのように考えているのか知りたい!」と心が躍るような題材開発を大切にしています。英語の表現が多様になったり幅広くなったりすると同時に、コミュニケーションの本質を体感できるような授業を展開していきたいと考えています。（植木さつき・小池智美・池田卓弥）



保健体育科の主張

1. 教科で育みたい人間像

生涯にわたって、自分（たち）なりに運動や健康的な生活にかかわっていく人

2. 教科ならではの文化

自分たちなりの合理的な動きや健康的な生活について新たな視点を得ながら思考し、体現しようとする営み

子どもたちが、保健体育科ならではの文化を味わい、自分たちの動きや生活に対する考えの変化を実感し、互いに認め合うことができるような授業を実践していきます。そのために、「取り組んでみたい」という思いがもてる題材づくりや題材構想をし、子どもたちが多様な視点をもてるように全体共有する場を設定することを大切にします。（杉山慎一郎）



音楽科の主張

1. 教科で育みたい人間像

様々な音や音楽のよさや美しさを味わい、分かち合う人

2. 教科ならではの文化

音楽に対する感性を豊かに働かせながら、表現や鑑賞を深めていく営み

子どもたちの音楽に対する感性をさらに豊かにし、「もっと様々な音や音楽のよさや美しさを味わいたい」という思いを育む授業をめざします。そのために、「音や音楽そのもの」に心が動かされる瞬間を共有しながら、表現や鑑賞を深めたり、様々な音楽文化について価値を見いだしたりすることを大切にしています。（小林真人）



交流研修のご案内

静岡市立清水第七中学校との交流研修が5年目を迎えました。昨年度は、清水第七中学校の校内研修で行われた英語科と保健体育科の授業参観と事後研修、道徳研修に参加しました。題材や授業づくりについて意見を交わすという貴重な時間をもつことができました。今年度も交流研修を引き続き行い、教科同士のつながりを深めていきたいと考えています。より多くの先生方と授業・題材づくりについて意見交換ができれば幸いです。（担当：小池智美）